

作成日 2018/11/28
改訂日 2018/12/06

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|----------|---------------------|
| 化学品の名称 | C6エポキシ |
| 製品コード | ST-C6EPOXY |
| 整理番号 | Y1905-2 |
| 供給者の会社名称 | ダイキン工業株式会社 |
| 住所 | 大阪府大阪市北区中崎西二丁目4番12号 |
| 担当部門 | 化学事業部 営業部 |
| 電話番号 | 06-6373-4345 |
| FAX番号 | 06-6373-4281 |
| 緊急連絡電話番号 | 06-6349-7521 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|----------|---|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 区分外 |
| 健康有害性 | 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分3（気道刺激性） |
| 環境有害性 | 水生環境有害性（長期間） 区分3 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。 |

GHSラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

警告
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き 安全対策

ガスの吸入を避けること。(P261)
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋を着用すること。(P280)
保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
特別な処置が必要である。(P321)
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)

| | |
|---------------------|---|
| 保管 | 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364) 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405) |
| 廃棄 | 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501) |
| 重要な徴候及び想定される非常事態の概要 | 眼、皮膚、呼吸器等に刺激を与える可能性がある。 |

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|----------------------------|----------|-----|----------|------------|------------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| 3-パーフルオロヘキシル-1, 2-エポキシプロパン | 100% | 省略 | 少量新規化学物質 | 8-(4)-1611 | 38565-52-5 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

| | |
|-----------|--|
| 吸入した場合 | 本製品の加熱又は燃焼によって生じるフェームを吸入した場合は新鮮な空気のある場所に移す。 必要に応じて医師の処置を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 多量の水と石鹸で洗うこと。 必要に応じて医師の処置を受ける。 |
| 眼に入った場合 | 直ちに清浄な水で15分間以上洗眼する。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 必要に応じて医師の処置を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 必要に応じて医師の処置を受ける。 |

5. 火災時の措置

| | |
|-------------|---|
| 消火剤 | 噴霧水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状注水。 |
| 特有の危険有害性 | 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法 | 容器内に水を入れてはいけない。 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 |
| 消火を行う者の保護 | 消火は風上から行い、蒸気、煙の吸入を避ける。 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上に留まる。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び | 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 |

| | |
|----------|---|
| 機材 | 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 |
| 二次災害の防止策 | 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 着火した場合に備えて、消火剤を準備する。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

製造所、営業所の外への飛散、流出、また地下への浸透が起こらないように措置を講ずる。

安全取扱注意事項

環境への放出を避けること。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

取扱い場所は禁煙とする。製品が付着した煙草の喫煙により分解ガスを吸入する恐れがあるので、煙草の持ち込みも禁止とする。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

施錠して保管すること。

酸化剤から離して保管する。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。

容器は直射日光や火気を避けること。

容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

安全な容器包装材料

消防法で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

局所排気装置を設置する。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

容器及び受器を接地/結合すること。

保護具

呼吸器の保護具

防毒マスクには有機ガス用吸収缶を使用する。

製品が加熱され、生ずる分解生成物中に人体が暴露される場合は有機酸性ガス用防毒マスク（場合によってはエアラインマスク）を使用する。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

保護眼鏡（側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

液体

形状

液体

色

無色或いは淡黄色

臭い

特異臭

臭いのしきい（閾）値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

82.2℃（クリーブランド開放式）

| | |
|----------------|-------|
| 蒸発速度 | データなし |
| 燃焼性 (固体、気体) | データなし |
| 燃焼又は爆発範囲 | |
| 下限 | データなし |
| 上限 | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 蒸気密度 | データなし |
| 比重 (密度) | データなし |
| 溶解度 | 非水溶性 |
| n-オクタノール/水分配係数 | データなし |
| 自然発火温度 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| 粘度 (粘性率) | データなし |
| 動粘性率 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 反応性 | 情報なし |
| 化学的安定性 | 可燃性はあるが、通常の温度、気圧下では安定である。加熱または燃焼すると分解し、フッ化水素などの有毒なフェームを生じる。 |
| 危険有害反応可能性 | 通常の条件では危険有害な反応は起こらない。 |
| 避けるべき条件 | 高温、加熱。熱源、裸火。 |
| 混触危険物質 | 酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | 熱分解生成物として、一酸化炭素、フッ化水素を発生する可能性がある。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------------------|-----------------------|
| 急性毒性 | |
| 経口 | LD50 >300 mg/kg (rat) |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | データなし |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | データなし |
| 呼吸器感作性 | データなし |
| 皮膚感作性 | データなし |
| 生殖細胞変異原性 | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 生殖毒性 | データなし |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | データなし |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | データなし |
| 吸引性呼吸器有害性 | データなし |

12. 環境影響情報

| | |
|---------------|--|
| 水生環境有害性 (急性) | データなし |
| 水生環境有害性 (長期間) | データなし |
| 生態毒性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | データなし |
| その他 | 環境残存性の恐れがあるため、漏洩、廃棄などの際には、取り扱いに注意すること。 |

13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。
地方条例や国内規制に従う。
残余廃棄物

廃棄は耐酸性の焼却炉にて800℃以上で焼却し、フッ化水素等の燃焼排ガスの処理対策を講ずる。
処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃

汚染容器及び包装

棄物処理業者に焼却処分を委託する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

| | |
|---|----------------|
| 海上規制情報 | 該当しない |
| Marine Pollutant | Not applicable |
| Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code | Not applicable |

| | |
|--------|-------|
| 航空規制情報 | 該当しない |
|--------|-------|

国内規制

| | |
|--|-------|
| 陸上規制 | 該当しない |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 非該当 |
| MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 航空規制情報 | 該当しない |

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止措置を確実に行う。

緊急時応急措置指針番号

なし

15. 適用法令

消防法

第4類 第三石油類（非水溶性）

16. その他の情報

その他

当製品は、工業用途として開発されたもので、それ以外の使用について、その安全性を保証するものではありません。本製品を医療用途、食品用途などにお使いの場合は弊社まで事前にご連絡ください。このSDSは、一般的な取扱いを前提に作成したものです。取り扱う際は、ここに記載されている内容を参考にし、十分注意して取り扱ってください。また、記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険有害性情報は、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

変更点

- 「2. 危険有害性の要約」に変更があります
- 「5. 火災時の措置」に変更があります
- 「7. 取扱い及び保管上の注意」に変更があります